

令和2年度 瑞穂野南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

社会に貢献できるよう、心身ともに健康で、豊かな人間性をもった実践力のある児童を育成する。

- ・ 健康で たくましい子（体）
- ・ よく考え やりぬく子（知）
- ・ 正しく 思いやりのある子（徳）
- ・ ふるさとを愛する子（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「人間尊重の教育」を基盤として、全職員が自らの使命を自覚し教育活動の充実に努めるとともに、家庭・地域と協働した地域とともにある学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

目指す学校像 ・安全・安心な学校 ・力のある学校 ・地域とともにある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○「健康でたくましい子」の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導と主体的に健康な体づくりができる教育活動を推進する。
- (2) ○「正しく思いやりのある子」の育成に向け、道徳科の充実を図り、個々のよさを伸ばし、かかわることをとおして認め合い、豊かな人間関係を築く教育活動を推進する。
- (3) ○「よく考えやりぬく子」の育成に向け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、学びに向かう集団づくりをとおして、学習意欲の向上を目指した学習活動を推進する。
- (4) 「ふるさとを愛する子」の育成に向け、地域ボランティアの協力を得た体験活動や、宇都宮学を中心にした学習活動を推進する。また、本地域ならではの災害等を正しく理解し、自ら危険を予測して回避できる力を身に付けられる活動を推進する。
- (5) 保護者・地域と連携した教育活動の推進を図るため、社会に開かれた教育課程の視点に立ち、地域の教育力を最大限に生かし、家庭及び地域社会との連携を一層深めるとともに、積極的な情報発信に加え、地域協議会を効果的に活用し、地域とともにある学校づくりを推進する。
- (6) 教職員が健康で教育活動へのやりがいをもって勤務し、質の高い教育が行えるよう、「働き方改革」の視点に立ち、職場環境並びに業務改善の取組を推進する。
- (7) 教職員が、教育のプロとしての誇りを持つとともに、真摯な態度で自己研鑽に努め、児童の思いに寄り添いながら一人一人を大切にされた教育活動を展開し、誰からも信頼される教職員として職務を遂行する。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性、社会性）を育てる小中一貫教育

4 教育課程編成の方針

- (1) 編成にあたっては、関係法令、小学校学習指導要領、県教育委員会の指導指針、宇都宮市学校教育スタンダード、学校経営の方針等に基づき、学校及び児童の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働により、「社会に開かれた教育課程」を実現する。
- (2) 学習指導要領の内容を十分に理解し、人格の完成を目指し、個性の伸長と豊かな人間関係づくり、基礎的・基本的な学習内容の定着と活用力の育成を図るとともに、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科横断的な視点で内容の充実を図り、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むことができる教育課程を編成する。
- (3) 児童一人一人の生きる力を育むために、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開し、教師と児童が一体となった創造的な活動に取り組む。また、特別の教科 道徳の時間を要として、学校教育活動全体、並びに家庭・地域における豊かな体験をとおして、児童の道徳性の育成を図り、道徳的实践力が養われるよう教育課程を編成する。
- (4) 小中一貫教育カリキュラムを展開していく中で、地域学校園の各学校と連携を図り、小中一貫教育の趣旨を十分に踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

| |
|--|
| <p>【 学 校 運 営 】</p> <p>地域や家庭と連携し、児童も教職員も生き生きと主体的に活動できる安全・安心な学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な学校づくり ・児童が安心して楽しく通える学校づくり ・学力の向上を目指す学校づくり ・勤務時間並びに業務改善を意識した働き方の推進によるゆとりのある学校づくり <p>【 学 習 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いをつなげ、学びの楽しさが見付かるカリキュラムの構想 <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人一人の特性を伸ばし合える、学びに向かう集団づくり（学業指導の充実）」 <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康・体力に関心もち、進んで健康な体づくりに取り組む児童の育成 |
|--|

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

※今年度は、学校生活全般にわたって感染症拡大防止に十分配慮しながら教育活動を推進する。

| 項目 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評価 |
|---------|---|---|-----|--|
| 目指す児童の姿 | <p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート</p> <p>「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <p>・授業を通して、「話を聞く」「分かりやすく伝える」態度や技能が高まるように指導する。</p> <p>○国語・算数を中心に基礎的・基本的な内容の定着を図る。また、その効果的な指導方法、児童の学力向上に向けての支援の手立てを工夫する。</p> <p>・授業での言語活動を重視し、自分の考えをまとめる時間を確保して主体的・対話的な学びの充実を目指す。</p> <p>・学習ルールの更なる定着を図りながら、双方向的なコミュニケーションを大切にしようとする姿勢を育てる。</p> | B | <p>【達成状況】</p> <p>児童 84.6%</p> <p>保護者 96.3%</p> <p>教職員 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は目標をわずかに下回った。 ・感染症対策のため、通常の話合い活動を充実させることが難しかったが、指導を工夫し、双方向にコミュニケーションを図った学習を進めてきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 |
| | <p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート</p> <p>「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」</p> <p>⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 85%以上</p> | <p>・朝の会、帰りの会で他者への優しい行いを称賛する。</p> <p>・思いやりに欠けた言動が見られた場合には、その都度他者の立場から考えてみるよう促すなど、丁寧に指導する。</p> <p>・人権教育年間指導計画に基づき、学校全体の教育活動において人権教育を推進する。</p> <p>○なかよし班活動では、遊びだけでなく清掃の時間も異学年交流の場として活用し、相手の立場を理解して思いやる心を育てる。</p> | B | <p>【達成状況】</p> <p>児童 93.7%</p> <p>保護者 95.5%</p> <p>教職員 100.0%</p> <p>地域住民 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれも、目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育だけでなく、道徳教育年間指導計画にも基づき、学校全体の教育活動において人権教育を推進する。 <p>○縦割り班活動での異学年交流の場を活用して多くの教職員が関わり、全校体制で相手の立場を理解して思いやる心を育てる。</p> |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|----|-------|-----|--------|-----|--------|------|-------|
| <p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答85%以上</p> | <p>・ふりかえりタイムなどをとおして、児童が生活目標を進んで自覚し、落ち着いた生活を送ろうとする態度を育てる。</p> <p>○チャイムが鳴らない授業の開始時刻や一斉下校時の下校時刻など、時間を守ることの指導を徹底する。</p> <p>・“マナー3か条”「①先にあいさつをしましょう ②廊下や階段は静かに右側を歩きましょう ③友達は『さん』付けで呼びましょう」を設定し、「マナーを守っている」ことを実感できるようにする。また、「脱いだ靴を下駄箱にきちんと整頓する習慣」の会得を徹底し、自分自身の言動を振り返ったり他者のことを考えて行動したりできる児童の育成を目指す。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>84.6%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>97.0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr> </table> <p>・児童は目標をわずかに下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・職員の生活当番活動を充実させ、適切な場所で適切な機会に指導を行い、きまりやマナーを守って生活するこの大切さについて児童の意識付けを図っていく。</p> <p>・朝会や校内放送を利用して、児童指導担当が全校児童に呼びかけを行い、意識を高める。</p> | 児童 | 84.6% | 保護者 | 97.0% | 教職員 | 100.0% | | |
| 児童 | 84.6% | | | | | | | | | |
| 保護者 | 97.0% | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100.0% | | | | | | | | | |
| <p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答85%以上</p> | <p>○児童会プロジェクト活動による毎朝のあいさつ運動、下校時のあいさつ、児童集会での呼びかけ等により、自ら進んであいさつしようとする態度を育てる。</p> <p>・学級での指導、集会時や日常の指導などをとおして、全校体制であいさつを重視する環境づくりを進める。</p> <p>・教職員から進んで丁寧なあいさつをすることで範を示し、教職員、保護者、来客に対して自分からあいさつできる児童を育成する。また、児童同士でも互いに気持ちのよいあいさつができるよう、あいさつ強化週間を定期的に設定し、児童の意識を向上させる。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>97.2%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>89.6%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>94.1%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>88.9%</td></tr> </table> <p>・いずれも、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>○学校生活の様々な場面で、自分の身近な人（友達、保護者、教職員、地域の方）に対して、時と場に応じた気持ちのよいあいさつを行うことについて、指導を続ける。</p> | 児童 | 97.2% | 保護者 | 89.6% | 教職員 | 94.1% | 地域住民 | 88.9% |
| 児童 | 97.2% | | | | | | | | | |
| 保護者 | 89.6% | | | | | | | | | |
| 教職員 | 94.1% | | | | | | | | | |
| 地域住民 | 88.9% | | | | | | | | | |
| <p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上</p> | <p>・児童が「自ら目標を設定し、それに向かって努力することの大切さ」に気付けるよう、家庭学習の習慣化の取組とも連携を図っていく。</p> <p>・各種検定等を継続的・計画的に位置付け、児童が自分なりの目標を設定し、進んで取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>・児童の自己肯定感を高められるよう、教職員が認め励ます指導を継続して行うとともに、児童同士が相互に認め合う場を積極的に設定する。</p> <p>・道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。</p> | <p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>88.8%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0%</td></tr> </table> <p>・いずれも、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・各教科の学習や特別活動等、様々な場で、児童が自らの目標に向かって挑戦する機会を設定し、最後までやり遂げられるよう支援したり各自の頑張りを称賛したりして達成感や成就感を味わわせ、物事に粘り強く取り組む態度を養う。</p> | 児童 | 88.8% | 教職員 | 100.0% | | | | |
| 児童 | 88.8% | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100.0% | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|----|-------|----|-----|--------|--|-----|--------|--|
| <p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校内外を「感染症拡大防止」の観点から点検し直したり、「新しい生活様式」の確実な実践指導を徹底したりして、感染症拡大防止に努める。 ・安全教育を徹底することにより、けがによる保健室利用を減少させる。 ・日常生活や教科指導の中で、自然災害（雷、竜巻、洪水等）について、学年の発達の段階に応じて指導し、安全に行動できるようにする。 ・避難訓練、交通安全教室などの定期的な実施、事前指導・事後指導の充実とおして、児童が安全な学校生活を送ろうとする意識を高め、日常生活における自らの安全確保に必要な各自の判断力を確実に身に付けさせていく。 ・情報交換会や定期的な交流、毎朝のあいさつ運動や立哨活動などの機会を活用し、スクールガードチーフ及び見守り隊との連携を深め、児童の登下校の状況の把握に努めるとともに、児童が主体的に通学時の安全について考え行動する機会を設け、安全意識の高揚を図る。 ・体育関係各種検定カードの活用や業間のスポーツタイムの充実により、自ら体力向上に取り組む児童の育成を図る。 | <p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>93.7%</td><td>3%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>95.4%</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td></td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれも、目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も引き続き感染症拡大防止に努めるとともに、感染状況などの情報を教職員で共有し、その環境に合った対策や学習内容を確実に共通理解して指導にあたる。 ・ 児童指導主任・養護教諭等を中心に安全に関する生活目標を全校に呼び掛けるなど、安全な学校生活への関心を高め、進んで安全な生活を送ろうとする資質・能力を育成する。 | 児童 | 93.7% | 3% | 保護者 | 95.4% | | 教職員 | 100.0% | |
| 児童 | 93.7% | 3% | | | | | | | | | |
| 保護者 | 95.4% | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100.0% | | | | | | | | | | |
| <p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業で年間を通して「個性の伸長」等について指導し、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲を高めるとともに、宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリア・パスポートの有効活用を図って、望ましい勤労観・職業観を意図的・計画的に育む。 ・外部機関や企業との連携を図った体験的な学習を通して視野を広げ、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会を確保し、将来の社会人としての基盤づくりに努める。 | <p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>88.8%</td><td></td></tr> <tr><td>保護者</td><td>85.4%</td><td></td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれも、目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「宮・未来キャリア教育年間指導計画・内容一覧表」・「キャリア・パスポート」を活用し、学校・家庭とで共通理解を図りながら、児童が夢や目標に向けて取り組もうとする意欲を育む。 | 児童 | 88.8% | | 保護者 | 85.4% | | | | |
| 児童 | 88.8% | | | | | | | | | | |
| 保護者 | 85.4% | | | | | | | | | | |
| <p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修等により教師自身の指導力を向上させ、英語によるコミュニケーションの楽しさを児童が実感できる授業の構築に努める。 ・外国語活動・外国語科の授業やALTとの交流を通じて言語や文化について体験的に児童の理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 | <p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>95.1%</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td></td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれも、目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間等の授業以外の時間にも、児童がALTと積極的にコミュニケーションが取れる機会を計画的に設定する。 | 児童 | 95.1% | | 教職員 | 100.0% | | | | |
| 児童 | 95.1% | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 100.0% | | | | | | | | | | |

| | | | |
|--|--|----------|--|
| <p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上</p> | <p>・生活科、3、4年生での社会科、5、6年生での総合的な学習の時間の授業（「宇都宮学」）や掲示物等を通じて、宇都宮市の伝統・文化・産業等に対する児童の理解を深め、郷土愛を育む。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】 児童 88.8%</p> <p>・ 目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ 生活科の瑞穂野地区のよさを知る活動や、3、4年生での社会科、5、6年生での総合的な学習の時間の授業（「宇都宮学」）を通して、地域への愛着や宇都宮市の伝統・文化・産業等に対する児童の理解を深め、郷土愛を育む学習を計画的に実施する。</p> |
| <p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上</p> | <p>・国の「GIGAスクール構想」の趣旨に鑑み、日常の学習で、児童がタブレット等のICT機器を活用する場を意識的に設定し、授業のねらいを達成するため、効果的に機器を活用できるようにする。また、適切・安全に使いこなすことができるよう、児童にネットリテラシーなどの情報活用能力を育成する。</p> <p>・ 市立図書館とも連携し、授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。市立図書館の本を利用した調べ学習への取組などを、図書館だより等で保護者に知らせる。</p> | <p>A</p> | <p>【達成状況】 児童 95.1% 教職員 100.0%</p> <p>・ いずれも目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ 一人一台のChromebookを児童が効果的に授業で活用できるよう、校内研修等を通じて教師自身のICT活用力の育成に努める。</p> <p>・ 児童が各教科でコンピュータに意図した処理を行うよう指示する体験を積み重ねることで、プログラミング的思考の育成を図る。</p> |
| <p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答85%以上</p> | <p>・体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。</p> <p>・ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>・ 総合的な学習の時間や各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】 児童 93.7% 保護者 95.5% 教職員 100.0% 地域住民 100.0%</p> <p>・ いずれも、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ 道徳教育・人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>・ 総合的な学習の時間や各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を工夫（オンライン等を利用するなど）して設け、感謝の気持ちや相手を思いやる心を育む。</p> |
| <p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上</p> | <p>・ 社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間等の授業を通して、地域や国土の環境や防災への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>・ 「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識したぼうら活動、プロジェクト活動の充実を図り、牛乳パックのリサイクルやプラスチックごみの分別、環境美化への呼びかけなどを継続して行う。</p> <p>・ 教室移動の際の消灯、不要な水道の使用防止等、節電・節水などについて周知</p> | <p>B</p> | <p>【達成状況】 児童 88.8% 教職員 82.4%</p> <p>・ 児童は目標を上回った。教職員は昨年度を大きく上回ったが、目標には達していない。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ 各教科等における自然や環境に関する学習や防災教育の充実を図り、地震・水害等に備え、状況に応じた的確な判断の下に自らの安全を確保するための行動をと</p> |

| | | | |
|---------------------------------|---|--|---|
| | | <p>徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育の充実を図る。 | <p>れる力の育成を目指す。</p> |
| 目 指 す 学 校 の 姿 | <p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。 ・校内研修や職員会議等の際に、児童指導上の課題等を共有する場を確実に設け、適切な指導及び必要な支援の在り方について、教職員の理解を深める。 | <p>【達成状況】 教職員 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校での支援体制づくりを継続していく。 |
| | <p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本校基本方針を学校ホームページで公開するとともに、学校だより等を活用するなどして周知を図る。 ・いじめゼロ強調月間の取組やプロジェクト活動によるいじめ根絶に向けた児童の活動等をとおしていじめの未然防止を図るとともに、いじめの早期発見及び適切な対応に努める。また、これらの取組を学年だより・学校だより等で公開し、家庭・地域・学校が同一歩調でいじめ防止に取り組めるようにする。 ・道徳科でもいじめに関する教材を引き続き取り上げ、全学年一斉に道徳の時間にいじめに関する授業参観を実施するなどして、学校全体でいじめのない環境づくり体制の強化を図る。 ・いじめの原因の一つともなり得る携帯電話やスマートフォンなどに関する約束や情報モラル等を指導するとともに、適切な使い方について保護者と共通理解を図る場を設定する。 | <p>【達成状況】 児童 98.6% 保護者 90.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれも、目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市及び本校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめは絶対許されないことという児童自身の規範意識の向上や思いやりの心の育成に努める。 |
| | <p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・互いに存在を認め合う人間関係づくりを目指し、各自が自己肯定感を高められるよう、教師による日常的な声掛けや朝の会・帰りの会等での児童が互いに称賛し合う場の設定を行い、学級での取組を学級懇談会や学年だよりで周知する。 ・教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向・問題行動の早期発見と不登校の兆候や傾向のある児童に係る校内での情報共有を図る。 | <p>【達成状況】 児童 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童の自己肯定感を高めることを目指し、今後も、居がいのある学校・学級づくりを行う。また、不登校傾向のある児童の早期発見に努め、保護者と確実に連携を図り、適切な早期対応に努める。 |

| | | |
|--|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換を活発に行って全職員が児童理解に努めるとともに、組織的対応のできるシステムを構築する。 ・「共遊の時間」を継続実施し、児童同士及び教職員と児童のより良い関係づくりに努める。 | |
| <p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童の特性による学習上・生活上の困難の理解に努め、必要に応じて特別支援教育コーディネーター・養護教諭と連携し、支援に係る適切な判断や支援を行える体制を整えておく。また、スクールカウンセラーとの更なる連携強化に努め、専門的見地に立った適切な指導への助言を得られるようにする。 ・児童が国籍や文化の違い等を認め合い尊重し合いながら生活できるよう、国際理解を推進し、日常的な指導に努める。 | <p>【達成状況】 教職員 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他国の多様な文化に触れる機会を設定し、自国と他国の隔てなくそれぞれを尊重しようとする態度を育成する。 |
| <p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や瑞南ふれあい祭りなど、あらゆる教育活動の場面で、児童相互、教師と児童、教師と保護者や地域の人とがふれあう機会を設定する。 ・児童会活動の活発化を図り、児童が主体的に取り組む場を設ける。 ・「なかよしタイム」及び「共遊の時間」を継続実施し、児童同士・教師と児童間の豊かな人間関係の構築に努める。 ・教師間のコミュニケーションを十分図って風通しの良い関係を構築し、校務分掌の枠を超えて協力・分担する協働の意識を高める。 | <p>【達成状況】 児童 92.3% 保護者 95.5% 教職員 100% 地域住民 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれも、目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア・パスポートを活用して自他のよさや成長を認め合う場を設け、児童相互のより良い関係を構築する。 ・ 特別活動や集会活動に児童が主体的に関わることができるよう、活動の在り方を工夫改善していく。 |
| <p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいの明確化とまとめ・振り返りの実施により、児童が見通しをもって取り組み、学んだことや自分の成長を実感できる授業を行う。 ・児童の実態を踏まえて、教材を工夫するなど、分かる授業の実践に努める。 ・学級担任とかがやきルーム指導員や学力向上担当教員の連携を密にし、より一層効果的な実施方法を工夫して少人数指導の充実を図る。 ・習熟度別学習やT・Tなどの少人数指導を充実させ、児童の実態に合わせて、各自の学力をさらに伸ばす指導や取組について工夫していく。 | <p>【達成状況】 児童 100.0% 保護者 91.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれも、目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校課題を軸とした職員研修を実施し、教師一人ひとりが公開授業を行い、授業研究会を行うことで授業力向上を図る。また、年間を通した校内研修の充実により、教職員同士で学び合い、各自の授業力向上を目指す。 |

| | | |
|--|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・年間をとおして内容を整理した職員研修を実施し、教師一人ひとりの授業力向上を図る。「授業を見せ合おう月間」の継続実施により、教職員同士で学び合い、各自の授業力向上を目指す。 ・教職員と児童、児童相互のコミュニケーションに際し、傾聴の姿勢が身に付くよう、さらに学習環境作りに努める。 | |
| <p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、話を聴く、声をかける、称賛する、指導する、家庭と連携するなど、児童・保護者等と積極的に関わる。 ・全教職員が学校経営への参画意識をもってチームとして取り組めるよう、共通課題を設定し解決に取り組む。 ・教職員同士の打合せの時間を確保したり報・連・相を徹底したりしてコミュニケーションを十分図れるようにし、教職員同士が協力し合い、協働して教育活動の推進に努める。 ・授業参観や学級懇談会などの内容を工夫し、指導方針や学級経営方針への保護者の理解を深めるよう努める。 | <p>【達成状況】 教職員 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が、多様な課題にチームとして対応することができるよう、情報交換の時間の確保や場の設定を計画的に設ける。 ・個々の教職員のよさや能力を発揮できるよう、校務分掌の工夫に努める。 |
| <p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が児童と向き合う時間の確保に努めるために、働き方改革の視点に立って、業務の効率的な実施・計画的な処理を意識する。 ・全教職員が、各自の立場から負担軽減の方策を考えて「一人一改善」を提案し実践するなど、更なる業務改善に努める。 ・ミラタイムによる出退勤の記録を蓄積することにより、適正な勤務時間の管理についての教職員自身の意識を高める。 | <p>【達成状況】 教職員 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の可視化を図り、小チームで計画的に対応できる仕組みを構築するなど、職員間の連携を強化する。 ・学校行事の精選、校務分掌の見直し等により、業務量の縮減を目指す。 |
| <p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○地域学校園分科会ごとに今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。 ○4校連教育講演会や情報交換の実施により、小中の相互理解を深める。 ○児童や保護者にも広く「小中一貫教育」の取組と意義を周知するため、広報活動を積極的に行う。(小中一貫だより等の発行、地域協議会だよりとの連携) | <p>【達成状況】 教職員 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画的な分科会の実施により、地域学校園内の情報交換を密にして共通理解を図り、地域の課題に即した各分科会の取組の充実を図る。 |

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答85%以上</p> | <p>・地域協議会との連携を更に強化し、一層の教育的効果が期待できる学校行事や授業への協力を地域へ依頼する。</p> <p>・街の先生や地域ボランティアの方々を学校行事や授業に積極的に活用することをとおして地域の教育力の活用を図るとともに、学校と地域が協働して児童の健全育成に取り組める環境づくりに努める。</p> | B | <p>【達成状況】 保護者 91.5% 地域住民 100.0%</p> <p>・ いずれも、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ 地域協議会との連携を工夫し、学校行事や授業に地域の教育力を積極的に活用できるように、更なる情報収集に努める。</p> |
| <p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答85%以上</p> | <p>・企業等による出前講座、校外での体験学習等、校外の各種機関の専門知識、施設・設備を活用した多様な学習を位置付ける。</p> <p>・地域協議会と連携し、学校経営方針への保護者・地域住民の理解を深め、意見や学校関係者評価の結果を反映させて学校経営の改善に努める。</p> | B | <p>【達成状況】 保護者 91.5% 地域住民 100.0%</p> <p>・ いずれも、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】→継続</p> <p>・ 企業等によるオンラインによる出前講座等、新しい交流の在り方の開発に努め、各種機関の専門知識や技術等を活用した多様な学習を実践する。</p> |
| <p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・教職員の肯定的回答85%以上</p> | <p>・新型コロナウイルス感染症対策の徹底、熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じて適切な保健指導管理に努める。</p> <p>・定期的に学校施設の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にし、児童自身の危機回避能力を育成する。また、それらの取組を学校だよりや保健だより等で保護者及び地域住民にも情報発信し、日常生活における安全な行動の仕方を共有していく。</p> | B | <p>【達成状況】 保護者 94.5% 地域住民 100.0%</p> <p>・ いずれも、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ 危機管理マニュアルの見直しや改善を日常的に行い、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、洪水、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にし、児童自身が災害に立ち向かう態度や防災に関する基礎知識を確実に身に付けさせる。</p> |

| | | | | |
|-----------|--|---|---|---|
| | <p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上</p> | <p>・授業において、学習のねらいを達成させるために教師が効果的に機器を用いることで、課題解決にICT機器等を活用しようとする児童の意欲を高める。</p> <p>・新規導入タブレットを用いて、教室等での効果的なICT機器の活用を実践し、児童の学力向上と教職員の授業力向上を目指す。</p> <p>・市立図書館とも連携し、授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p> | B | <p>【達成状況】 児童 95.1% 教職員 100.0%</p> <p>・ いずれも目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> Chromebookを児童が効果的に授業で活用できるよう、校内研修等を通じて教師自身のICT活用力の向上に努める。 市立図書館との計画的な連携により、教育用図書の確保と充実に努める。 |
| | <p>B1 児童は、周囲の人に感謝の気持ちをもって生活している。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、お世話になった人に進んで感謝の気持ちを伝えている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p> | <p>・「感謝の気持ちをもつ子は、高い自己肯定感を有する」という理念の下、自分の周囲の人や物に対しての感謝の気持ちを培う活動を、家庭と連携して工夫して行う。</p> <p>・帰りの会等で、児童同士が相互に認め合って感謝を述べ合う場を積極的に設定する。また、教職員が児童のよい行いに気付いた際には積極的に感謝の言葉を述べ、範を示す。</p> | B | <p>【達成状況】 児童 91.6% 保護者 91.7% 教職員 100.0% 地域住民 100.0%</p> <p>・ いずれも目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の日常的な言葉かけによって、様々な人々の協力によって児童の安全で快適な学校生活が維持されていることに気付かせ、周囲の人・物への感謝の心を育む。 |
| 本校の特色・課題等 | <p>B2 児童は、学習することの意義を理解して学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、学習したことは自分に役立つと考えている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答85%以上</p> | <p>・新しいことを学習する際でも既習事項をいかして課題解決ができることに気付いたり、学習の振り返りで自分自身の成長に気付いたり、学習したことを実生活で活用したりする経験を児童が積み重ねることで、児童自身が学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感できるよう、指導過程を工夫する。</p> <p>・上記のような児童の姿が見られたときには積極的に称賛し、次の活動への意欲を高められるようにする。</p> | B | <p>【達成状況】 児童 97.9% 保護者 80.3%</p> <p>・ 保護者は目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業での学習の振り返りを重視し、児童が自分自身の成長や学習の有用性を実感できる指導過程を工夫することで、主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。 授業参観等を活用し、新しく取り組んでいるICTを活用した授業や外国語活動・外国語科の時間を公開し、今日的な学校教育に対する保護者の理解の深化を図る。 |
| | <p>B3 学校と家庭とが連携し、基本的な家庭学習の習慣が育成されている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、基本的な家庭学習の習慣が身に付いている。」</p> | <p>・家庭学習スタンダードを活用し、家庭と連携しながら家庭学習を奨励する。</p> <p>・児童の学習状況を踏まえた課題を与えるなど、家庭学習を効果的に進められるような学習環境づくりを進める。</p> <p>・学年だより、学級懇談会、授業参観やオープンスクールなどの機会を活用し、学校と家庭とが連携して児童の学習を</p> | B | <p>【達成状況】 児童 88.1% 保護者 83.7%</p> <p>・ 保護者は目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習強化週間では、児童への具体的な学習内容の指導を行うだけでなく、保護者に、児童の意欲を高め望ましい学習習慣を身に付けるために有効な関わり方等についても分かりやすく紹介する。そうした働きかけを通して、親子で相談し |

| | | |
|--|---|---|
| <p>⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p> | <p>支えられるような体制づくりに努めるとともに、児童のよさや成長の跡を保護者に伝え、家庭の協力を呼びかける。・家庭学習強化週間を設定し、具体的なアドバイスの提示、積極的な取組の様子の紹介、児童の努力への称賛などにより、家庭学習に対する児童や家庭の意識の高揚を図る。また、望ましい学習習慣を身に付けるための保護者の関わり方等についても紹介し、個に応じた家庭学習の仕方について親子で相談できるようにする。</p> | <p>合いながら取り組んだり、保護者が児童の成長を実感したりできるようにする。</p> |
| <p>B4 児童は、自分のよいところに自信をもち、自己肯定感をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに自信をもって生活している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p> | <p>・児童の自尊感情を高められるよう、児童が相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。また、児童のよさを積極的に保護者に伝え、家庭でも話題にし、称賛してもらえるようにする。 ・授業では、振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや、努力したこと、自分自身の成長を自覚できるような自己評価・相互評価の場を設ける。</p> | <p>【達成状況】 児童 79.7% 保護者 87.7% ・児童は目標を下回った。 【次年度の方針】 ・キャリア・パスポートを活用し、児童同士が自他を認め合える機会を設ける。 ・児童に対して、結果だけではなく成長のプロセスを称賛する場を意識して多く設ける。その様子を保護者にも伝え、保護者からも認め励ましてくださるよう協力を仰ぐ。</p> |
| <p>B5 児童は、人間関係や学校生活の秩序を維持するための基本的な生活習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、脱いだ靴をそろえたり、マナー3か条を実践したりするなど、学校のルールを守っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <p>・落ち着いて生活したり、他者を大切にしてい互いに気持ちよく活動したりできるように、各自が学校のルールを守ることが大切であることを繰り返し指導する。 ・児童指導主任や生活当番を中心に、児童の様子で気がかりなことがあった場合には全教職員で共有し、直ちに解決に取り組む。 ・学校での取組を家庭や地域とも共有し、児童のマナーアップへの協力を依頼する。</p> | <p>【達成状況】 児童 94.3% 教職員 100.0% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・学校からの情報発信により学校での取組を家庭や地域と共有することで、基本的生活習慣の更なる定着を目指す。また、児童が周囲から認めていただくことで、自己肯定感を高め、望ましい人間関係の育成や高い自己管理能力の育成を目指す。</p> |

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・ 評価に関する数値的指標は30項目中 26項目で達成されており、概ね良好な状況である。特に、児童への設問では、20項目中18項目で市の平均を上回っており、学校の教育活動にうまく適応しているものと考えられる。
- ・ 「思いやりの心」「いじめへの取組」「不登校対策」「活気ある学校」に関しては、教職員・保護者・地域住民・児童のいずれも高い肯定的回答率であり、落ち着いた生活の様子が高く評価されている。
- ・ 特に、「いじめへの取組」については、昨年度と比較して保護者の肯定的回答率が7ポイント以上上昇して目標値を上回るなど、昨年の反省を基に指導の改善を図ってきたことが結果としてあらわれた。「不登校を生まない学級経営」についても、教職員・児童は100%、保護者も昨年度を5ポイント以上上回る92.1%と、一人一人を大切に学校の姿勢

が高く評価されている。

- 昨年度は課題が見られた「小中一貫教育」については、児童の肯定的回答率が昨年や市を大きく上回り、取組への理解が深まってきていると言える。次年度は、今年度かなわなかった具体的交流を充実させ、地域の一員としての自分たちの在り方について、更に実感としての理解を深めたい。
- ・ 「積極的な学習への取組」に関しての保護者の肯定的回答は昨年以上で約96%と高いものの、「家庭学習の習慣化」に関しては昨年同様約84%と、改善が見られない。学校としての取組を広報するだけでなく、保護者が児童の取組を実感できる働きかけの仕方を工夫改善する必要がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの学校生活の在り方に大きな変更を求められたり、積極的な児童同士の交流に制限があったりしたことが影響しているのか、児童の「夢や目標に向かっての努力」「自分のよさへの自信」については、肯定的回答率が昨年度を大きく下回った。次年度に向けて指導の改善が求められている。
- ・ 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、授業参観等を実施することができなかった。そのため、マネジメントの設問に対して「判断できない」と回答した保護者の割合も高かった。次年度は、感染症への対策を今年度以上に工夫しながら、学校公開の場を増やしていきたい。

7 学校関係者評価

- ・ 「児童の自己肯定感の向上」のためには、教師が児童を認め励ます教育の一層の充実が望まれる。また、児童が自分自身や友達のよさに気付ける機会を設けたり児童同士で互いのよさを認め合う場を数多く設定したりして、自分のよさに自信をもって生活できるよう支援していくことが大切なのではないか。更にこれらの積み重ねによって、自分中心に物事を考えるのではなく、相手を尊重するという態度も児童の中に育つのだと考えられる。
- ・ 「学習内容の将来の有用性についての保護者の意識の向上」のためには、授業公開やHP・各種たよりを通して、学ぶことについての会話を家庭内で増やせるよう学校側が働きかけの仕方を工夫したり、児童が学びの有用性を実感している具体例を保護者に紹介したりするとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 「あいさつ」「きまりやマナー」「自己肯定感の向上」の指導については、学校だけでなく、家庭や地域とも連携を図りながら協力して行っていく。
- ・ 積極的な広報活動を通して学校での様々な取組を継続して発信するとともに、感染症対策を十分講じながらの授業公開を可能な範囲で実施することで、保護者や地域と児童のよさや課題を共有し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
- ・ ICT機器や図書等の計画的・効果的な授業での活用により、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った分かる授業を展開することができるよう教師の授業力向上を図る。また、機器を活用することで面と向かい合わなくても教師や児童との関わり方の中で児童が意見を述べたり友達の意見を聞いたりしながら自分の考えをもち、その後お互いの意見を発表し合ったり認め合ったりする場を確保する。そうした経験の積み重ねにより、児童の自己肯定感の向上を目指す。